



2021年12月期 決算説明会

株式会社 堀場製作所

代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

代表取締役社長 足立 正之

2022年2月15日

説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されています。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

2021年の振り返り

外部環境

- ◆ 脱炭素・カーボンニュートラル対応への気運が高まる
- ◆ 自動車電動化への投資が加速
- ◆ 通信データ需要の増大に伴う半導体生産設備投資の増加
- ◆ ライフサイエンス分野へさらに関心が集まる

内部状況

- ◆ 中国・欧州を中心に成長投資を継続
- ◆ 新技術開発に注力、積極的な製品上市
- ◆ 医用およびエネルギー分野での買収を実施
- ◆ 水素エネルギー・ライフサイエンスなど新分野のビジネス拡大

2021年12月期 連結実績

(単位：億円)

	2020年	2021年			
	実績	前回予想 (11/11)	実績	VS 前年	VS 前回予想
売上高	1,870	2,200	★ 2,243	+372	+43
営業利益	196	285	★ 320	+123	+35
営業利益率	10.5%	13.0%	14.3%	+3.8p	+1.3p
経常利益	193	280	★ 320	+126	+40
親会社株主に帰属 する当期純利益	131	185	213	+81	+28
USドル (円)	106.76	109.00	109.90	+3.14	+0.90
ユーロ (円)	121.88	130.00	129.91	+8.03	▲0.09

2021年12月期 連結実績 (セグメント別)

(単位：億円)

	売上高					営業利益				
	2020年	2021年				2020年	2021年			
	実績	前回 予想 (11/11)	実績	VS 前年	VS 前回 予想	実績	前回 予想 (11/11)	実績	VS 前年	VS 前回 予想
自動車	639	640	612	▲26	▲27	24	10	▲0	▲24	▲10
環境	183	210	★ 202	+18	▲7	16	15	19	+3	+4
医用	210	250	258	+48	+8	▲4	5	1	+5	▲3
半導体	569	810	★ 870	+300	+60	140	240	★ 280	+139	+40
科学	268	290	★ 299	+31	+9	19	15	19	▲0	+4
合計	1,870	2,200	★ 2,243	+372	+43	196	285	★ 320	+123	+35

★ : 過去最高

2021年12月期 連結実績 (B/S、CF)

B/S

- ◆総資産は、現預金の増加および、売上の増加に伴う売掛債権の増加により、+435億円の3,715億円
- ◆自己資本比率は54.8%

(2020年12月末比)

CF

- ◆利益計上などにより、営業CF：+352億円
 - ◆設備投資などにより、投資CF：▲146億円
 - ◆配当金支払などにより、財務CF：▲40億円
- フリーCF：+206億円

説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

HORIBAから見た市場環境の想定

全般		部材などの調達状況は引き続き懸念 Withコロナ社会での経済活動再活性化に期待
自動車		水素活用も含む電動化・自動運転技術開発のさらなる加速を見込む 内燃機関関連の開発投資需要は停滞が続く
環境		環境規制需要は堅調に推移し、大気・水質計測を中心にアジア市場が拡大 脱炭素の動向を受け、石油プロセス市場でのビジネス拡大を期待
医用		新型コロナウイルス感染症の収束時期が地域によって不透明であり、 市場環境は見通しにくい
半導体		半導体メーカーの設備投資は高水準で継続 半導体製造プロセスの技術進化により、中期的に計測需要が拡大
科学		半導体市場での開発および製造プロセス向け計測・分析機器が堅調 ライフサイエンス市場での需要拡大を期待

2022年12月期 業績予想

(単位：億円)

	2020年	2021年	2022年	
	実績	実績	予想	VS 前年
売上高	1,870	2,243	★ 2,500	+256
営業利益	196	320	★ 350	+29
営業利益率	10.5%	14.3%	14.0%	▲0.3p
経常利益	193	320	★ 345	+24
親会社株主に帰属 する当期純利益	131	213	★ 230	+16
一株利益 (円)	312	505	545	+40
ROE	7.6%	11.2%	10.8%	▲0.4p

2022年12月期 業績予想 (セグメント別)

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	2021年 実績	2022年 予想	vs 前年	2021年 実績	2022年 予想	vs 前年
自動車	612	680	+67	▲0	15	+15
環境	202	★ 235	+32	19	20	+0
医用	258	★ 285	+26	1	5	+3
半導体	870	★ 960	+89	280	★ 290	+9
科学	299	★ 340	+40	19	★ 20	+0
合計	2,243	★ 2,500	+256	320	★ 350	+29

説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

2021年実績/2022年予想

(単位：億円)

2021年実績

■ 内燃機関開発は不透明な状況が継続。電動化関連の需要は拡大

【排ガス】

- ・ アジア地域では規制需要が一巡し、販売減
- ・ 日本向けの販売は低迷し、営業利益率低下

【MCT※1・ECT※2】

電動化、水素エネルギー関連需要を取り込み、販売増加

※1 Mechatronics (自動車計測機器)
 ※2 Engineering Consultancy & Testing
 (自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

2022年予想

【排ガス】

自動車メーカーによる設備投資は前年並みを予想

【MCT】

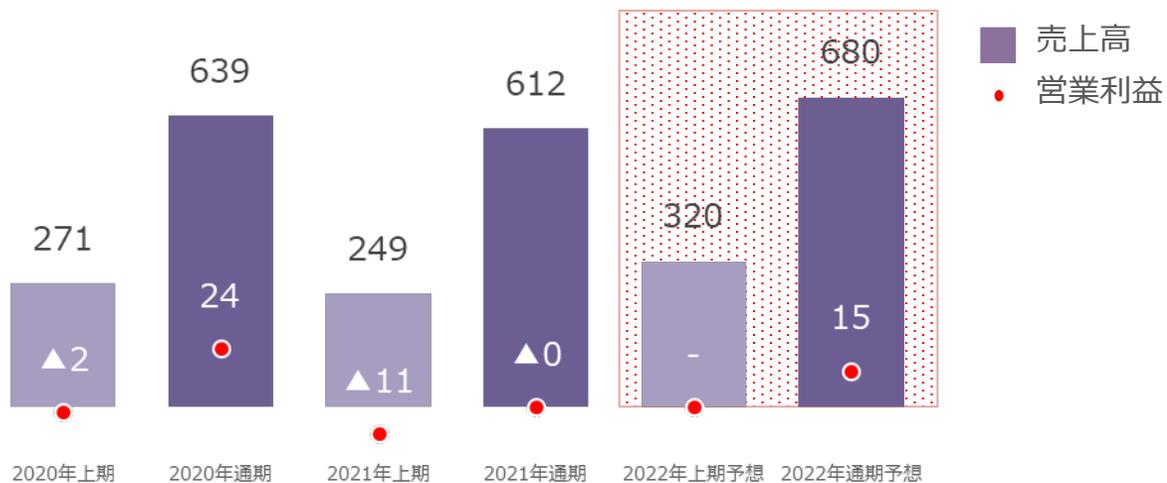
電動化車両開発や水素エネルギー活用に向けた研究開発投資加速により販売増加に期待

【ECT】

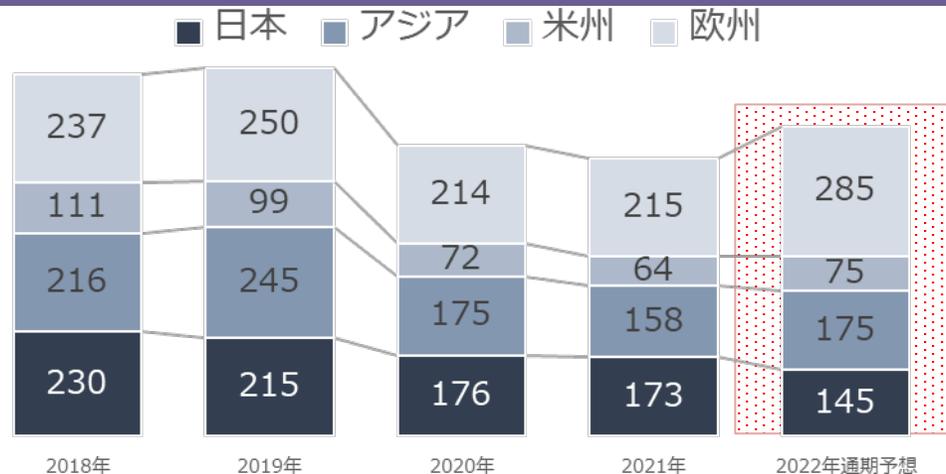
ADAS※3/CAV※4や電動化車両に関連する引き合い増加

※3 Advanced Driver-Assistance Systems
 (先進運転支援システム)
 ※4 Connected and Autonomous Vehicle
 (コネクテッド機能を備えた自動運転車)

売上高・営業利益推移 (上期/通期)



地域別売上高推移



2021年実績/2022年予想

(単位：億円)

2021年実績

- 環境規制を背景とした公共投資需要が底堅く推移し、販売増加につながる

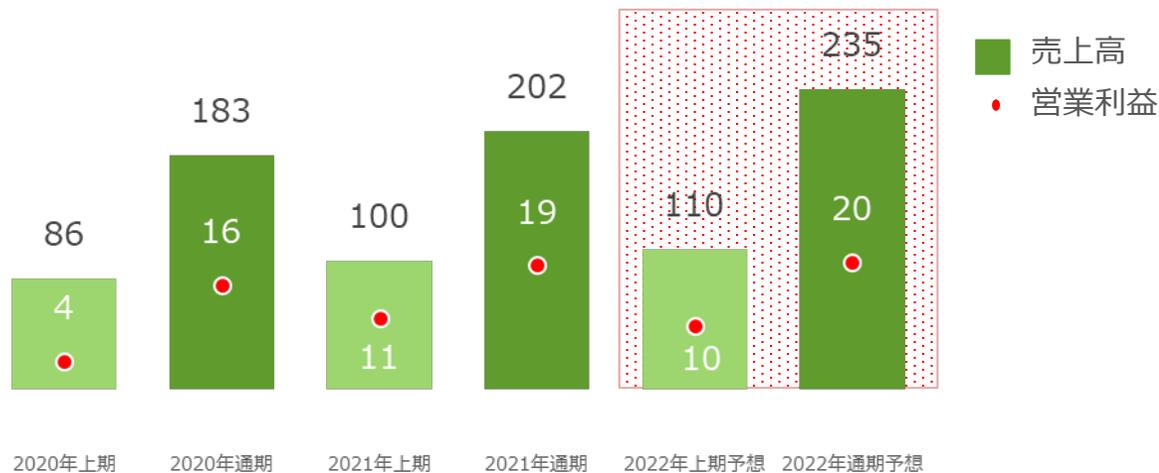
【ガス計測】

環境規制関連需要が堅調で、アジアにおける販売増加

【水質計測】

電子産業などの製造プロセス、また環境規制対応に向けた水質計測機器の需要堅調

売上高・営業利益推移（上期/通期）



2022年予想

※1 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage (二酸化炭素回収・有効活用・貯留)

※2 Total Organic Carbon (全有機体炭素)

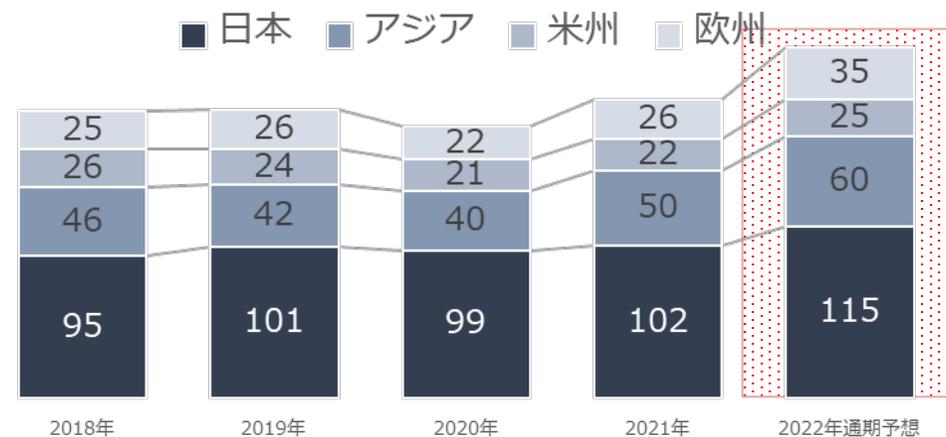
【ガス計測】

- 日本、欧州での製品リプレイス需要堅調
- 水素エネルギーやアンモニア燃焼発電など新エネルギー対応やCCUS※1関連の需要増加を見込む

【水質計測】

TOC計※2をはじめとした新製品ならびに規制需要の取り込みによる販売増を予想

地域別売上高推移



2021年実績/2022年予想

(単位：億円)

2021年実績

- 新型コロナウイルス感染症拡大を背景に検査試薬の販売は低調に推移

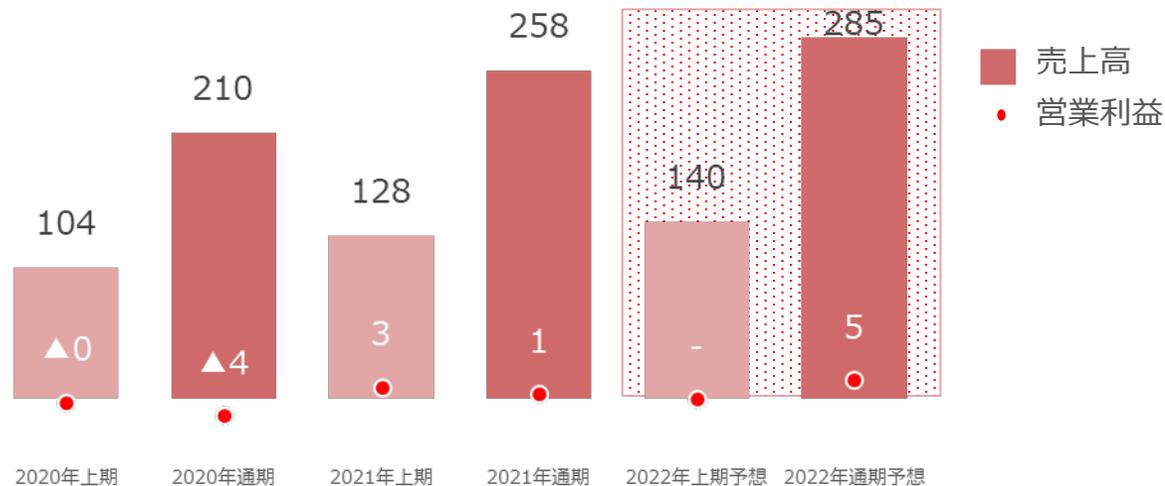
【アジア・欧州】

血球計数装置の販売が増加

【米州】

MedTest社買収による生化学用検査装置及び試薬の販売が寄与

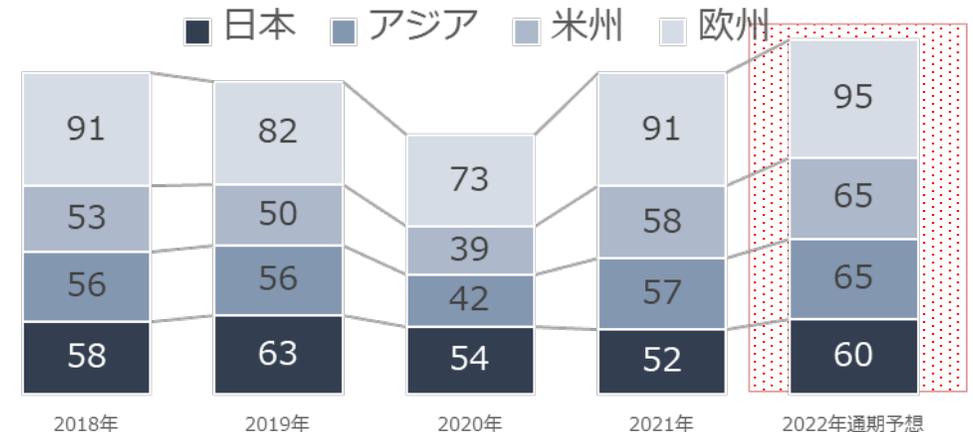
売上高・営業利益推移（上期/通期）



2022年予想

- 新型コロナウイルス感染症拡大の収束と、それに伴う病院への通院患者数の回復を期待
- シーメンス血球計数装置の供給開始による大型機器導入増加。中長期的な収益貢献を見込む
- MedTest社でのビジネスを通じて生化学分野のさらなる拡大をめざす

地域別売上高推移



2021年実績/2022年予想

(単位：億円)

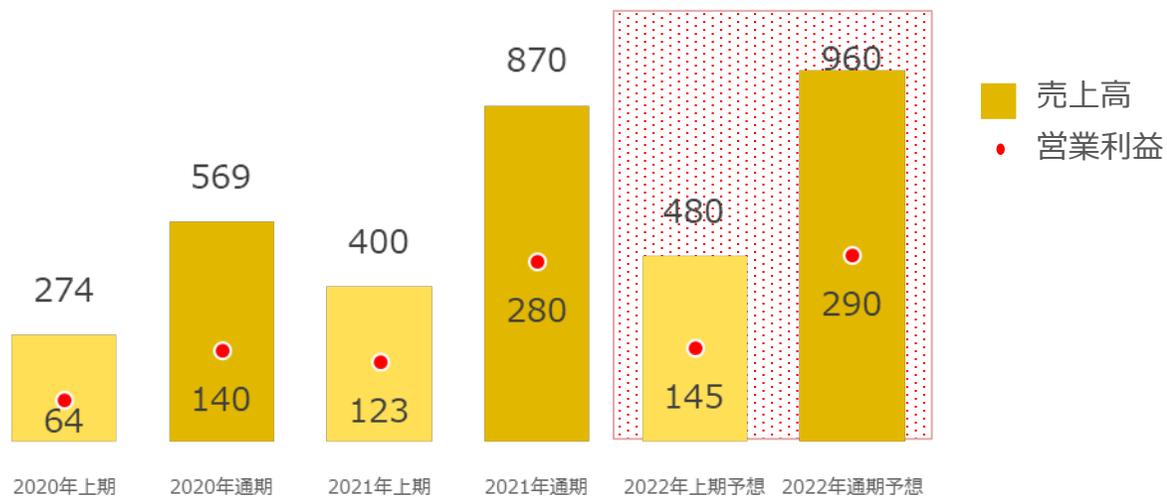
2021年実績

- 半導体の需要増加により半導体メーカーの設備投資が拡大。半導体製造装置メーカーへの販売が大幅に増加
- 部材調達への懸念が高まるが、年内での影響は限定的

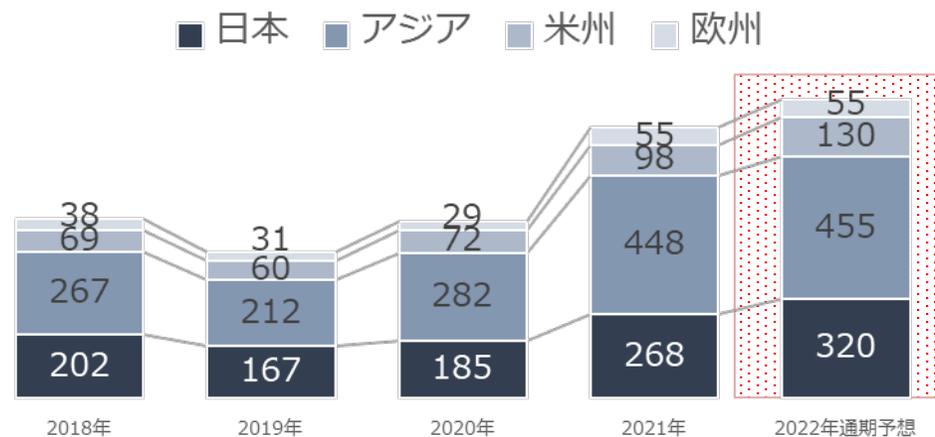
2022年予想

- 半導体メーカーの設備投資のさらなる増加が見込まれ、半導体製造装置メーカーへの販売増加を予想
- 引き続き、部材調達リスクを懸念
- 既存主力製品に加え、半導体製造に貢献する新製品の販売拡大を期待

売上高・営業利益推移（上期/通期）



地域別売上高推移



2021年実績/2022年予想

(単位：億円)

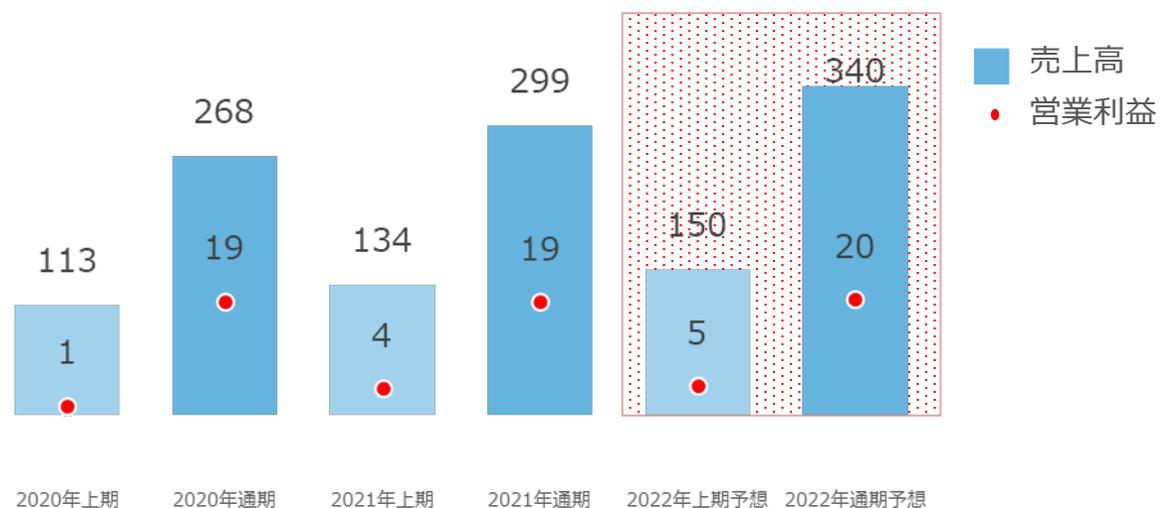
2021年実績

- 半導体製造装置メーカー向けなどの光学モジュールの需要堅調、販売増加
- 新型コロナウイルス感染症拡大影響からの回復に伴い、企業の研究開発投資も緩やかに回復。粒子径分布測定装置などの販売復調

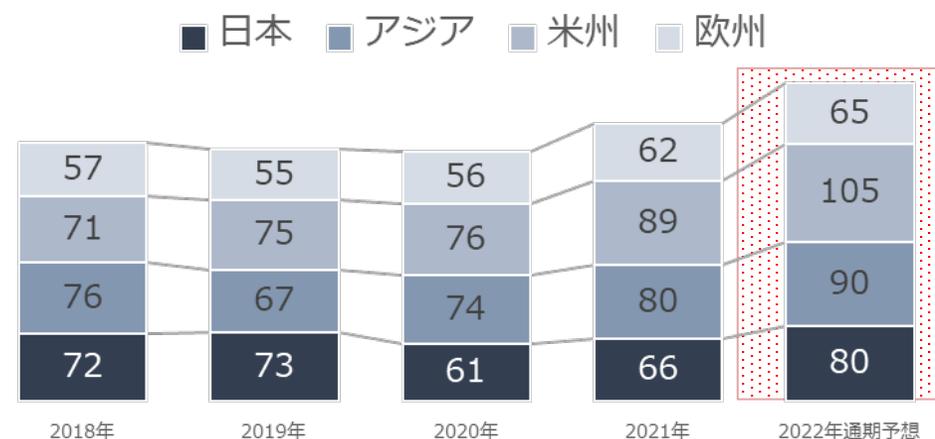
2022年予想

- 分析・計測のアプリケーションを技術・営業の両面より強化。これまでに市場投入してきた新製品の成果の刈り取りを見込む
- 製薬などライフサイエンス分野、半導体市場の産業プロセス向けに特化した製品への需要拡大を予想

売上高・営業利益推移（上期/通期）



地域別売上高推移



説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

社会課題に貢献するHORIBA

クロスセグメントで様々な社会課題に対応

Market Oriented Business

メガトレンドをリードする3フィールドに、コア技術をフル活用した分析・計測ソリューションを展開



Solution Provider Beyond “Life Cycle Management”

製品導入からリプレイスまで、全方位でお客様のコアビジネスをサポート

中長期経営計画”MLMAP2023”

クロスセグメントを深化させる組織改革

新事業の創出によりさらなる成長をめざす

ビジネスインキュベーション本部設立

5センター体制での運営

Alternative Energy Conversionセンター

Mobility Solution Businessセンター

Bio・Life Scienceセンター

Optical Smart Sensing (OSS)
(堀場エステックに所属)

R&D Planningセンター

Technology Innovationセンター

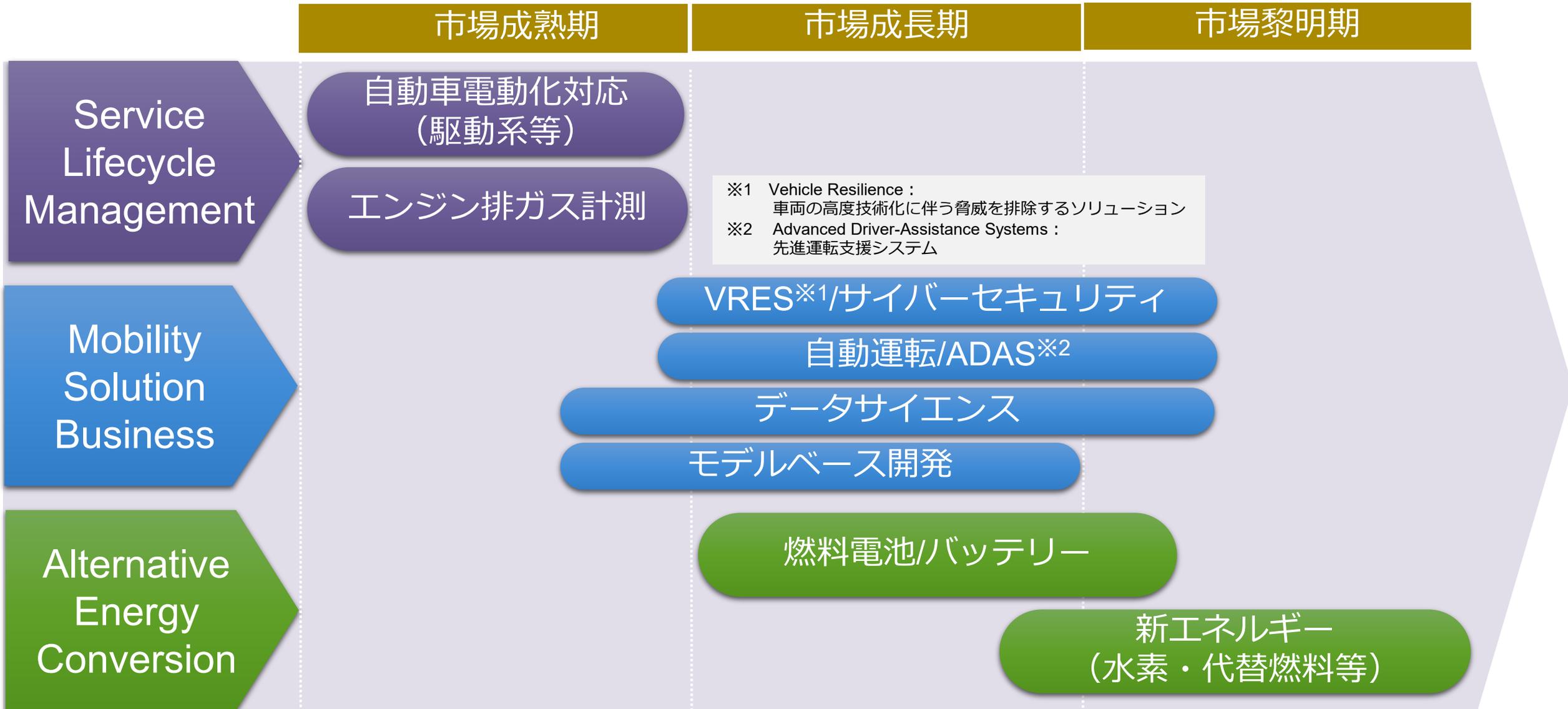


コーポレートオフィサー (CTO)
ビジネスインキュベーション本部
本部長 中村 博司 (工学博士)

- ✓ クロスセグメント活動における兼任者を専任化
- ✓ MLMAP2023で掲げる3つのフィールドへ、コア技術を結集したソリューションで提案

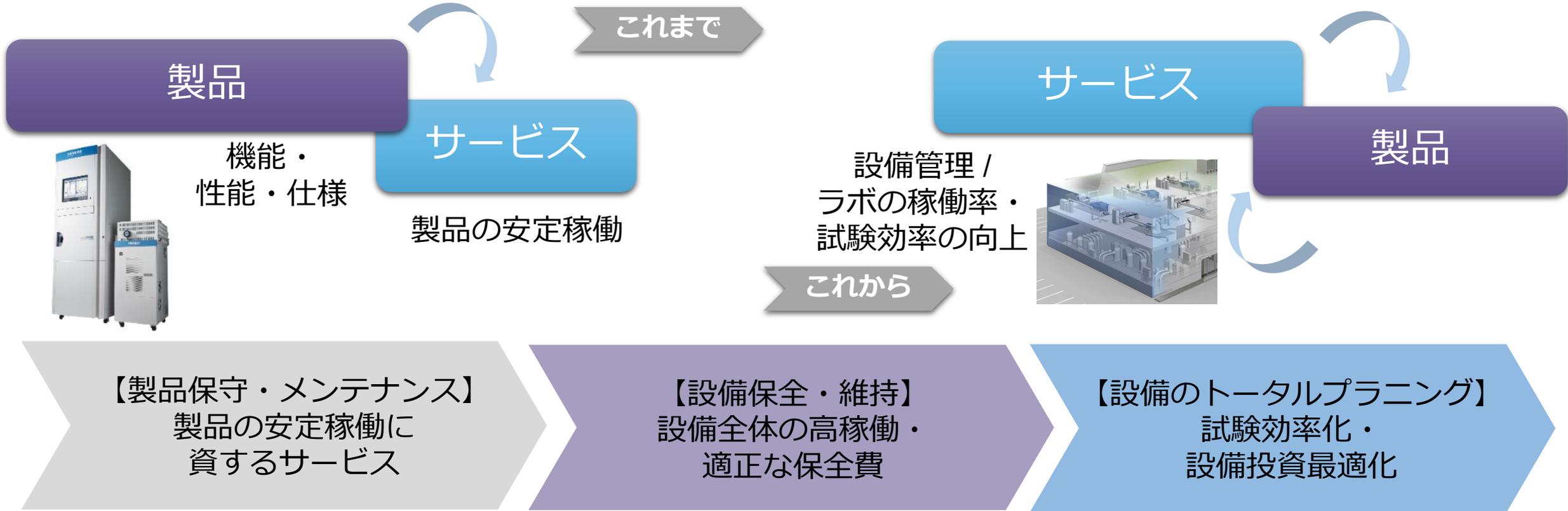
組織とプロセスを同時に改革し、製品上市のスピードを加速

自動車事業再編のコンセプト



Service Lifecycle Management (1/2)

お客様の設備管理機能のマネジメントまで代行するサービスの提供



機器販売 から インストールベースを起点とした
設備管理・マネジメントビジネスへの変革

Service Lifecycle Management (2/2)

約8,000におよぶインストールベースを起点としたビジネスモデルの変革



2001～2021年
エンジン排ガス測定装置 MEXA
約8,000式を出荷（市場稼働台数）

HORIBAのインストールベース

既存機器を
活かすための
高品質なサービス提供



サービス事業を担う
堀場テクノサービス社

- 【社会ニーズ】
自動車電動化
- ✓ 移行期での新車需要
 - ✓ EURO7など新規制導入

- 【顧客現場課題】
設備投資予算削減
- ✓ 老朽設備が更新困難
 - ✓ メンテナンス回数減少

自動車業界の変革を手厚くサポート

Mobility Solution Business (1/2)

モビリティビジネスに向けたソリューション提供を強化

Mobility Solution Business 注力分野

モデルベース
開発

- ✓ 顧客のモデルベース開発を支えるアプリケーションの提供

データサイエンス

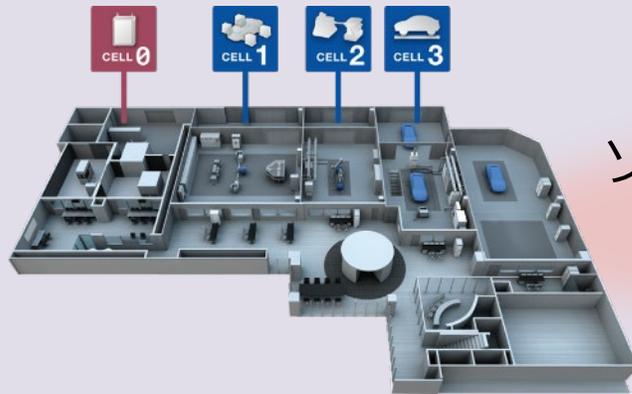
- ✓ データ管理プラットフォーム構築からデータ活用へ

VRES※/
サイバーセキュリティ

- ✓ サイバーセキュリティ・機能安全の効率的な車両評価ソリューションを開発

自動運転/
ADAS

- ✓ 自動運転/ADAS機能の車両評価ソリューションの規制化を見据えたビジネス展開



ソリューション開発

技術強化

新技術領域

規制化



新規分野

市場へのアプローチ

Mobility Solution Business (2/2)

新領域での車づくりを支援

HORIBA MIRA社の取り組みをグローバルに拡大



ASSURED CAV



- ✓ 自動車のサイバーセキュリティ・機能安全などの領域において総合的なアプローチを展開

- 米国の新興EVメーカー・Rivian Automotive社より、機能安全に関するプロジェクトを受託

VRES/サイバーセキュリティ

自動運転/ADAS

- ✓ 自動運転技術の実用化に向け、車両の制御性能や安全性評価試験を包括支援

- 直線1km、直径300mの制御可能通信網を備えた高速限界挙動評価コースが2021年12月に完成
- デジタル上でのシミュレーションと実証実験をシームレスに実施可能（デジタルツイン）



Alternative Energy Conversion (1/3)

既存ビジネスネットワークを活用して新たなアプリケーション開発を推進

つくる

エネルギー変換

つかう

既存事業領域

<Business Incubation>
Alternative Energy
Conversion

既存事業領域

環境
プロセス



自動車

コア技術

営業
ネットワーク

営業
ネットワーク

水素など新たな
エネルギー産業に向けた
アプリケーションの開発へ
リソースを集中

エネルギー関連
(電力・ガス・石油)

自動車産業
重工業

Alternative Energy Conversion (2/3)

フランスのカーボンニュートラル戦略へ貢献

- ✓ 2021年7月にフランス・マクロン大統領と代表取締役会長兼グループCEO・堀場厚が会談

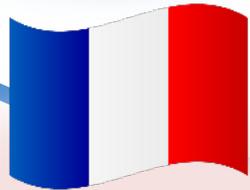


HORIBA

水素エネルギー 社会構築を サポート



- ✓ GENVIA社へ、エレクトロライザー評価装置を納入



- ✓ 小型原子炉複数導入し、その電力を活用したクリーン水素の大量生産をめざす
(2021年10月マクロン大統領演説)

- ✓ マクロン大統領は2021年11月にGENVIA社工場を訪問。19億ユーロの追加投資を行うと発表
 - 内2億ユーロはGENVIA社の開発投資に充当

- ✓ フランスの水素技術ベンチャー企業
- ✓ クリーン水素生産、エネルギー貯蔵、燃料アプリケーション開発

GENVIA

Alternative Energy Conversion (3/3)

新エネルギービジネス拡大に向けた様々な施策

ホリバフューエルコン社の新工場建設

新社屋イメージ図 (2022年竣工予定)



- ✓ 需要に対応する生産体制の確立をめざす新工場建設
- ✓ 生産能力増強により、フランス・GENVIA社への納入をはじめとする需要増加にタイムリーに対応
- ✓ 水素技術に関する大型研究・実証プロジェクト「H2Giga」に参画

【H2Gigaプロジェクト】

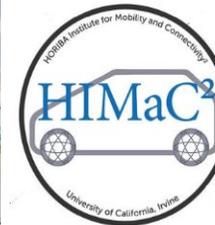
- ✓ 水素電解装置の量産化および価格低廉化をめざすプロジェクト

HORIBA MIRA & Octopus Hydrogen



- ✓ 車両開発を目的として、Octopus Hydrogen社の水素/EV充電ステーションをHORIBA MIRA社に設置
- ✓ 太陽光から水素エネルギーを生成

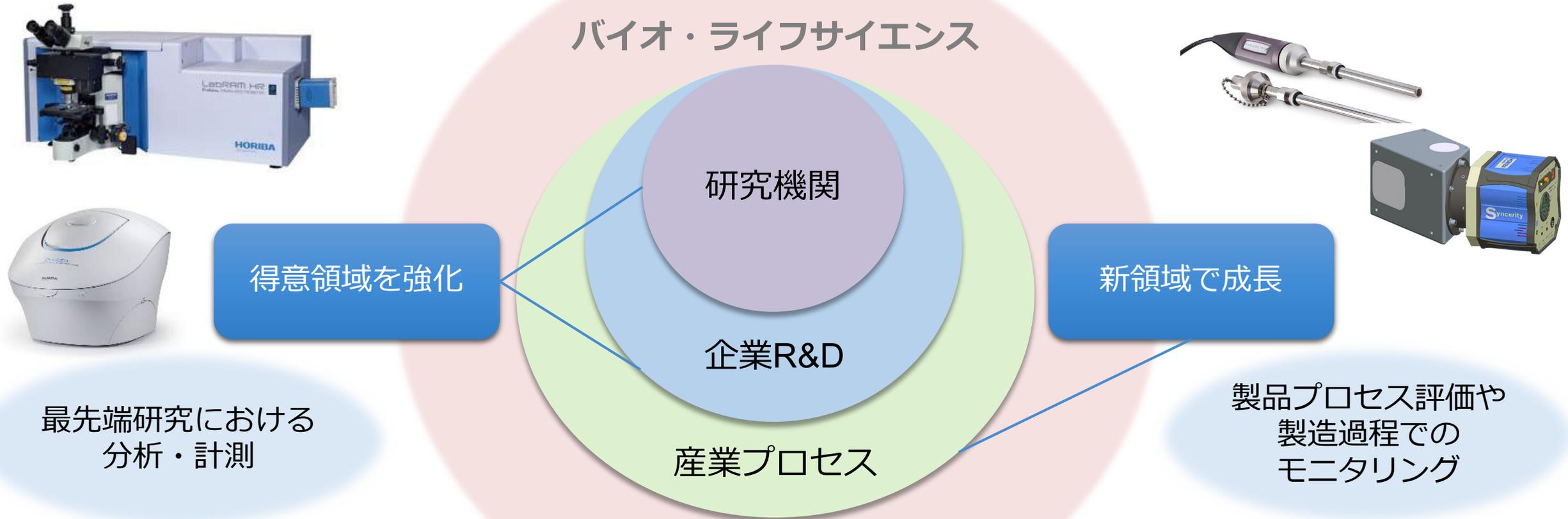
HORIBA Institute for Mobility & Connectivity²



- ✓ カリフォルニア大学アーバイン校に設立された、電力とモビリティのコンネクティビティ実現のための研究所
- ✓ 持続可能なエネルギー社会の到来を見据え、2018年に支援を決定

Bio・Life Science (1/2)

研究開発から製造まで、幅広く分析・計測ソリューションを提供



人財・技術のリソースをBio Life scienceセンターに結集、
これまで以上に欧米と日本の活動を連携させ、グローバルに対応

Bio・Life Science (2/2)

製薬業界でのビジネス拡大

カスタマイズ技術の提案、高品質な連続生産実現に貢献

細胞・生体試料の解析

- ✓ バイオマーカーへの応用が期待されるエクソソームの分析



Viewsizer™
3000

低分子医薬品 (製剤) の分析

- ✓ 錠剤中の薬効成分の迅速分析



透過型ラマン分光分析装置

ワクチンの品質検査

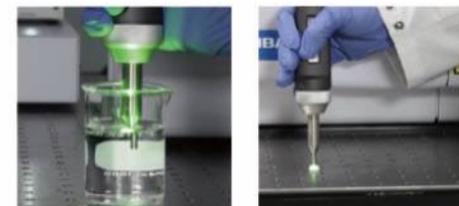
- ✓ 研究過程で使用するワクチンの効率的な検査



水中溶存有機物 (CDOM)
蛍光測定装置 Aqualog

抗体医薬品の分析

- ✓ 製造プロセスにおけるバイオリアクター (培養槽) のモニタリング



分析プローブ
&
顕微ラマン

探索研究

新薬開発

医薬品製造プロセス

Optical Smart Sensing (OSS) (1/2)

半導体市場向けセンシング技術の展開

マスフロー コントローラー



薬液濃度 モニター



Optical Smart Sensing

インライン・プロセスモニター



プロセス
ガスモニター



エンドポイント
モニター



ガスモニター

研究開発から品質管理まで
幅広く使われる測定機器



蛍光X線分析装置



分光エリプソメーター

半導体市場向けビジネス確立

新たな半導体市場向けビジネスとしての展開を図る

HORIBAグループがグローバルに保有する様々なセンシング技術を活用し、半導体市場に様々なアプリケーションを投入

Optical Smart Sensing (OSS) (2/2)

コア技術をベースに、ニーズに応じたソリューションを展開

半導体製造プロセスにおける生産性改善に貢献

レティクル/マスク異物検査装置 PD Xpadion

NEW!



- ✓ リソグラフィ工程で使用するレティクル*及び、ブランクスに付着した異物を迅速に測定

*パターン・ペリクル・ガラス面

- マイクロサイズの異物を迅速に測定
- 欠陥検査装置と併せて使用することで効率性向上

レガシーからEUVなどの最先端プロセスまで、効率的な異物検査が可能に

プラズマ発光モニター EV 2.0

NEW!



- ✓ 半導体製造プロセスでプラズマの状態を見極めるモニター
- ✓ エッチングのエンドポイント判断に必要な波長を自動抽出

分光エリプソメーター UVISEL Plus

- ✓ 薄膜・表面・界面の特性を分析
 - 超薄膜SiO₂ (約9.7nm) の評価が可能
- ✓ チャンバに搭載することで、リアルタイムに膜厚変化を計測できる



説明内容

- 2021年12月期 決算概要
- 2022年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- トピックス～クロスセグメントの深化
- 株主還元

株主還元政策

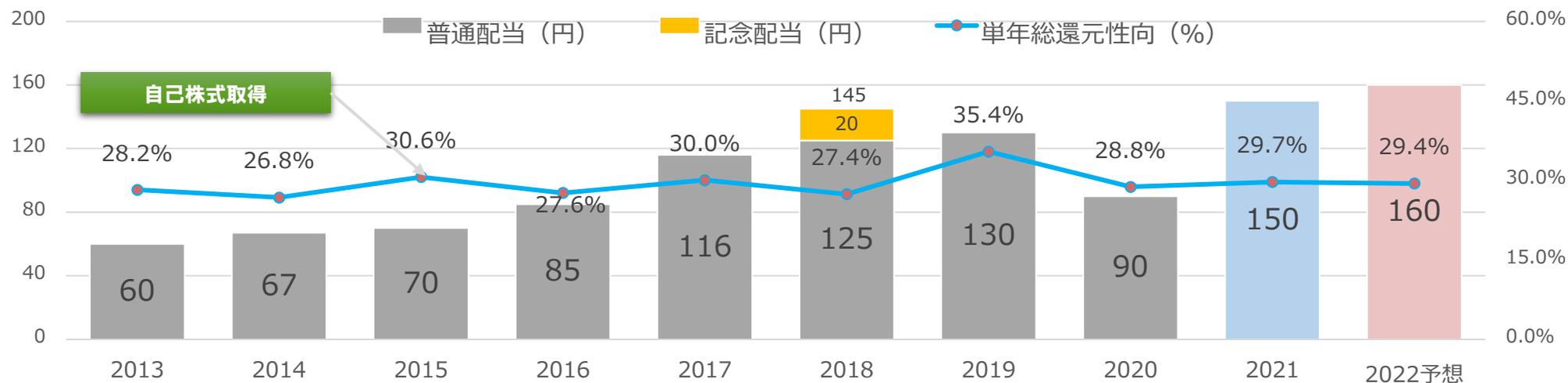
基本的な考え方

- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保（設備投資・M&Aなど）

配当金及び自己株式の取得

- 2020年実績 90円[中間 30円、期末 60円]
- 2021年実績 150円[中間 50円、期末 100円]
- 2022年予想 160円[中間 50円、期末 110円]

配当推移





2021年12月期 決算説明会 ～決算詳細説明～

株式会社 堀場製作所

常務取締役 財務法務本部長 大川 昌男

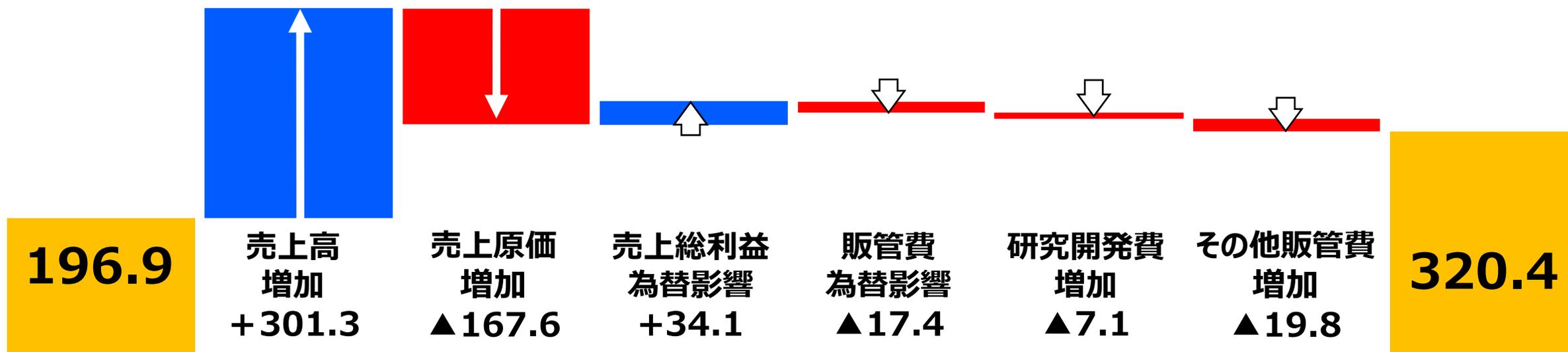
2022年2月15日

営業利益分析

(単位：億円)

2020年

2021年



為替影響を除く

粗利の増加 +133.7

為替影響 +16.7

経費の増加 ▲26.9

営業利益増加 +123.5

営業外損益

(単位：億円)

	2021年
売上高	2,243.1
営業利益	320.4
経常利益	320.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	213.1

	2021年	2020年
営業利益	320.4	196.9
金融収支	▲ 1.2	▲ 0.1
助成金収入	0.9	1.8
為替差損益	▲ 2.4	▲ 4.4
その他	2.6	▲ 0.1
営業外収支戻	▲ 0.0	▲ 2.9
経常利益	320.3	193.9

特別損益・法人税等

(単位：億円)

	2021年
売上高	2,243.1
営業利益	320.4
経常利益	320.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	213.1

	2021年	2020年
経常利益	320.3	193.9
投資有価証券売却益	0.0	5.5
減損損失	▲ 15.2	-
事業構造改善費用	▲ 2.6	▲ 11.3
その他	▲ 0.5	0.0
特別損益戻	▲ 18.3	▲ 5.7
税金等調整前当期純利益	302.0	188.2
法人税等 など	▲ 88.9	▲ 56.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	213.1	131.8

連結キャッシュフロー

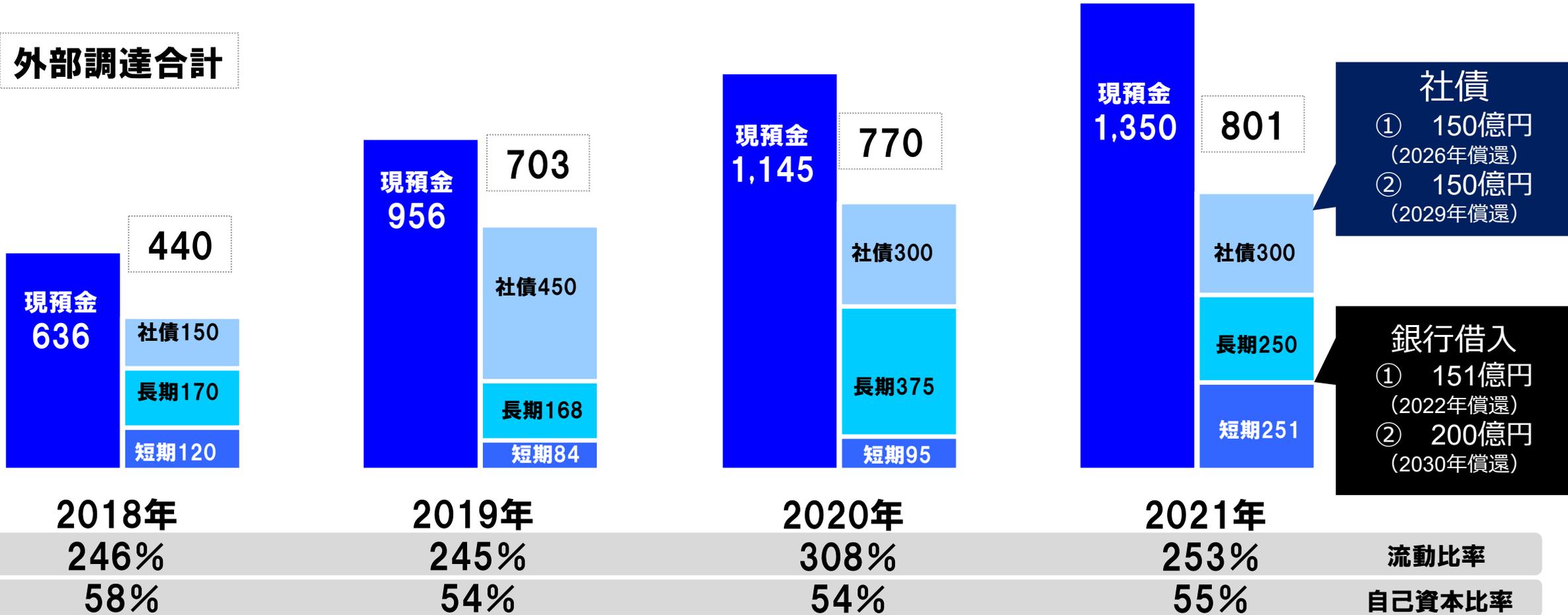
(単位：億円)

	2021年	2020年	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	+352	+322	+30
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 146	▲ 140	▲ 6
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 40	+8	▲ 48
現金及び現金同等物期末残高	1,339	1,141	+197
フリー・キャッシュ・フロー	+206	+182	+23

資金の状況

(連結ベース、各期末)
(単位：億円)

外部調達合計



・直近の格付け：R&I「A」(2021年8月)、JCR「A+」(2021年8月)

2022年想定為替レート

	2020年	2021年	2022年	
	実績	実績	予想	VS 前年
USドル	106.76	109.90	115	+5.10
ユーロ	121.88	129.91	130	+0.09

2022年予想：1円円高による営業利益へのインパクト（通期）

USドル ▲3.7億円

ユーロ ▲0.1億円

為替の影響額

(単位：億円)

2021年 為替影響額（前期比）

売上高の増加	+ 70.9
売上原価の増加（逆符号）	▲ 36.7
売上利益の増加	+ 34.1
販売費及び一般管理費の増加（逆符号）	▲ 17.4
営業利益への影響	+ 16.7

(円)	2020年	2021年	レート差
USドル	106.76	109.90	+ 3.14
ユーロ	121.88	129.91	+ 8.03

為替感応度（2022年通期予想） 1円円高による売上高/営業利益の影響額

	売上高	営業利益
USドル	▲ 7.2	▲ 3.7
ユーロ	▲ 3.5	▲ 0.1

(円)	2022年通期予想
USドル	115.00
ユーロ	130.00

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	2020年	2021年			2022年		
	実績	前回予想 (11/11)	実績	VS 前年	VS 前回予想	予想	VS 前年
設備投資額	151	165	124	▲26	▲40	150	+25
減価償却費*	96	105	104	+8	▲0	110	+5
研究開発費	155	170	167	+11	▲2	190	+22
(対売上高比)	8.3%	7.7%	7.4%			7.6%	

※のれん償却費含む

2022年 トピックス

- 有形固定資産：
 継続：中国拠点強化、ホリバ・フューエルコン社生産設備増強
 新規：各拠点生産設備強化など

ご清聴ありがとうございました

☆最新情報はWebでも！

堀場製作所

検索



☆お問合せ先

経営企画室 経営企画・IRチーム

E-mail : ir-info@horiba.com

TEL : (075) 325-5003

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun



Terima kasih
谢谢
Gracias
Tack ska du ha
Danke
Grazie
Σας ευχαριστώ πάρα πολύ
THANK YOU
धन्यवाद
شُكْرًا
Obbrigado
Большое спасибо
Cảm ơn
Merci
감사합니다
Dziękuję
ありがとうございました